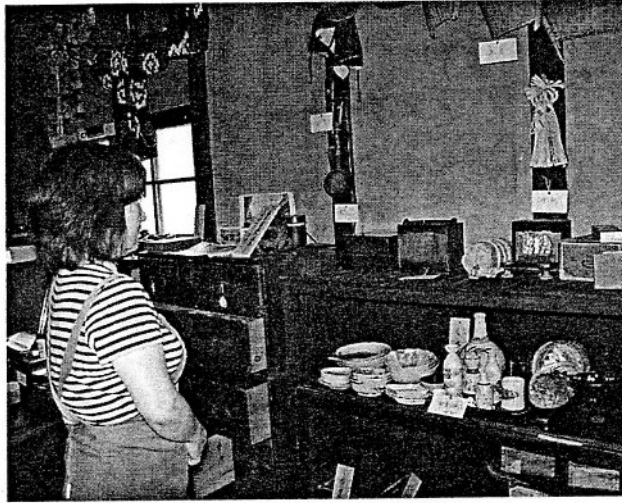


病で倒れた尾身さんの願い実現

30年来交流の立教大OBらが尾身さん宅で民具展

大地の芸術祭開催に合わせて、病で中断していた家主の願い受け継ぎ、交流していた立教大学のOBらが8月から1ヶ月間、鉢集落の民家で「石仏・語らいの家」をオープン、民具展や体験ワークショップなどを開いて関心と呼んでいる。この民家は平成18年4月に脳出血で倒れ、新潟市でリハビリに励む尾身ミノさん(78)宅で、尾身さんが倒れて以来、空き家になっていた。



尾身さんが収集した民具や食器などが展示されている

尾身さんは、集落で自らコツコツ収集した明治以降の食器や生活用具、子どもの遊び道具などを整理して、自宅2階に資料館を開くのが夢だった。

同大学の博物館学芸員養成課程の学生達が昭和51年から2年間、同集落の民家に分宿しながら民俗調査したのが縁だった。当時、尾身さんも学生を泊め、これがかっかけて民俗学に関心を持つようになり、博物館友の会でも活躍するようになった。

以後も交流を続け、尾身さんの願いを知ったOBの一人がかつての仲間達約30

人に呼びかけ、尾身さんの親戚も含めて昨年の秋から東京などで打ち合わせを重ねて来ていた。

メンバーの一人で埼玉県さいたま市の源田玲子さん(56)は「ミノさんにはアンケートを毎日FAXで知らせています。山村に生きた一人の女性が、生活の記録を残すためにコツコツと集めた民具を見て、尾身さんの気持ちを感じ取って欲

しい」と話している。

尾身さんの亡くなった夫や義父が木挽き職人だったこともあり、日本の木の文化を支えた技と知恵を見直すとうと、22、23日の両日、同集落石仏軒車場付近で「木挽きの技・体験ワークショップ」を開く。申し込み不要で無料、参加自由。

【22日】▽体験会(13:00～14:00)▽木挽き解説(14:00～15:00)

▽体験会(15:00～16:00)【23日】▽体験会(10:00～11:00)▽木挽き解説(11:00～12:00)

▽体験会(13:00～16:00) 問い合わせは「石仏・語らいの家」☎75710713へ。